

きょうのテーマ

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

火山の仕組み 取材し学ぶ

子ども向けの紙面を製作している全国の新聞社のこども記者が集う「全国こども記者交流会」が10月4、5の両日、長野県松本市で開催されました。テーマは「地域の再発見」。河北新報、朝日学生新聞、神戸新聞、信濃毎日新聞、西日本新聞の5社でつくる実行委員会が初めて企画し、各地の小学生の記者7人が参加しました。

週刊「かほピョンプレス」の記者は、宮城県大崎市鹿島台小5年の石川耀一朗さん(10)。長野県では2014年に御嶽山が噴火し、大きな被害が出ました。石川さんは噴火災害をきっかけに信濃毎日新聞が始めた「しんまい火山の学校」で、火山の専門家を取材しました。



in長野

ました。火山の仕組みや成果を報告します。

僕は5日、「火山の学校」に参加して、活火山の怖さとありがたさを、正しく知ることができました。信州大教授の竹下欣宏さんから、日本には活火山が100以上あることなどを教わりました。こんなに多いとは思っていませんでした。



安全な登山の広報や火山の仕組みの実験などをして御嶽山火山マイスターの皆さんからも、火山の話を楽しみました。僕は、登山や温泉が好きです。火山のおかげで素晴らしい景色や温泉を楽しめることや、噴火すると人の命を奪うことも学びました。

溶岩が流れる様子を再現した実験は、手作りの火山模型を使いました。本物の火山と溶岩みたいで、分かりやすかったです。もし噴火したら、どう行動すれば良いのかについて考えました。

怖さとありがたさ知る



アルミホイルで山を作り、溶岩に見立てたココア入りのコンデンスミルクがどう流れるか確認する石川さん(右)

僕の住む宮城県には、山も海もあります。そのおかげでおいしいものが食べられたり、自然の中で遊べたりできます。しかし11年の東日本大震災では、津波で多くの命が奪われました。

は、いつ来るか分かりません。火山の学習を通して、災害が起きてから何をするかではなく、起こる前に対策をしておくことが、人の命が失われなために重要だと分かりました。自分の地域の身近な災害や危険を確認し、備えておきたいです。

(2・8面に関連記事)

この日 何の日

◇27日(月) 文字・活字文化の日
出版文化を推進する目的で2005年に制定された文字・活字文化振興法で定められました。日付は読書週間(11月9日まで)の初日です。読書の秋、みんなもお気に入りの1冊を探してみてくださいはいかがでしょうか。

きょうの紙面

- 2面 全国こども記者交流会
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 全国こども記者交流会